

熊野筆道の資料の探訪

熊野筆の進展

熊野町の筆産業は、明治二十年ころから急速な発展を遂げています。熊野村統計調査表によれば、明治二十年製産本数十七万五千本に対して翌二十一年には一挙に五百万本と二十八倍に増加しています。

これは、明治十九年四月十日に小学校令が公布され、尋常小学校四年高等小学校四年の四・四制が実施となり筆需要が急に伸びたことに起因するものと思われまふ。この間の事情を熊野村統計調査表控(明治二十二年)には次のように述べています。

前年ニ対シ大差ヲ生スル所以ハ本年(同二十一年)ハ販路開ケ事業盛大ニシテ故ト兼業者モ他業ヲ止メ之レヲ専業トナシタ

ルヨリスル差ヲ見ルニ至レリ
「熊野村工業年報」の記述には、熊野筆の販路は、

「広島市・九州・四国・山陰各
国・大阪・西京・東京」(明治二十六年)

「九州・四国・中国・山陰・大阪・名古屋・東京・其他全国内」(同二十八年)

とあり「それ以降全国」とされています。

これらの記述からも、当時の熊野筆の販路の拡がる様子が見えまふ。(熊野町史七百十頁) 明治三十二年八月十六日付の芸備日日新聞に、

「安芸郡熊野村の製筆事業は古来行はれ来りたるものにして全村挙つて従事せる有様にて其産

額の如きも年十万円を降らずとの事なり、尤も之れを専業となすにあらざりて農業の余暇之れが製造を為すものなれば百對四十銭位のものもありて賃銭上の競争に至つては殆んど全国無類と云ふも不可なかるべく殊に近年に於て高価なものも出来するより産額の価格につきては頗る昂進せるものあらん、現に今月右製造に従事せるものを数ふるときは総計三千人にも達すべくして純然たる一村の活事業たる

ことなれば此場合之を以て同村是となし畜に安物を製出するのみならず完全なる工場を設け着々改良を企て以て時勢に後れざるものを製出せんに於ては優に一村の事業たるのみならず延て県下の産物を増加するに至らんや必せりと云ふものあり」との記事が掲載されています。

安芸郡々々長 天野雨石書幅

之伴孤臣宮お慶後悲壯存信
魂地彩似母情工主更作毛様付
玉尊
昭和十一年八月十六日付
熊野村史七百十頁
芸備日日新聞